

宮代町立小中学校の適正配置及び通学区域の編成等に関する審議会の 第4回会議録

1 日時・場所

令和2年1月31日（金）19:00～21:05

役場庁舎 202会議室

2 出席者

審議会委員：15名出席

濱本会長、佐藤副会長、杉村委員、池田委員、大和田委員、矢戸委員、金子委員、小澤委員、鶴見委員、籠宮委員、小林委員、戸田委員、松本委員、宍戸委員、菊地委員

事務局：中村教育長

教育推進課：大場課長、加藤主査、三反崎主事

3 開会

4 挨拶

教育長及び濱本会長から挨拶

5 前回の審議会の確認

大場課長：前回の審議会については既に会議録等で御確認いただいていると思いますが、欠席された委員もいらっしゃいますので、報告します。

前回の審議会は、11月27日水曜日午後7時から開催し、「適正配置計画等に位置付けられた学校数の検証として、通学に関する状況等」審議しました。

その中の方向性としては、通学距離については、「概ね半径4キロ以内として、通学の際の安全性を最大限確保する必要がある」との方向性でございました。なお、前回、実験した経路については、議論の場、又は、その後、審議会委員から、日本工業大学の裏側の町道については、夕方は街灯が少なく、真っ暗であったなどの情報提供をいただいております。

その点については、事務局も実際に、前回審議会後に現場を通して確認しております。

ただ、中学校の場所も含めて未定であり、そこが通学路になるかどうかというのは決まっていないという点は御理解をいただきたいと思います。

事務局としても、仮に再編を実施し、通学路を設定する際は、安全性の確保が重要であり、危険な箇所は解消又は安全対策は、学校再編の前提であると考えてお

ります。以上です。

6 審議事項について

事務局から資料説明後意見交換を行った。

濱本会長：ただいま事務局から資料の説明がありました。

本日は、適正配置計画等に位置付けられた学校数の検証として、学校と地域との関わりについてです。

いうまでもなく学校は、地域とともに歩んできています。その地域と学校との関係について、主に、中学校の状況を踏まえて、現状をどう評価するのか、そして、学校の適正配置を考える中で、地域との関係をどの程度考慮していくべきなのか、ということが本日の議論のポイントとのことでした。

そのポイントを整理すると、

資料の4ページにありますとおり、視点1、視点2、視点3について議論を行いたいと思います。

それでは、まず、視点1及び視点2から意見交換したいと思います。よろしくお願いします

金子委員：議論を始める前に、根本的な進め方について確認したいと思っています。我々審議会は諮問を受けています。我々の諮問は何なのかをもう一度考えてみると、計画と方針の検証をしてくださいということになっています。検証するに当たって我々が出す最終的な答えのイメージを共有できているのかなということ。そして、答えを出すに当たって何がそろっていれば検証ができたと言われるのかというイメージが共有できていない気がします。

結局検証した結果、OKかNGかです。OKだったら前提に問題はなく論旨に瑕疵はなく検討十分であった。だから計画は妥当であるという結論になるんだと思います。NGとなった場合は、そもそも前提が間違っているから計画は妥当ではない。または当時の状況としては妥当であったけれども、現状が変化しているので、現下の計画としては妥当ではない。あとは、論旨に瑕疵があるから妥当ではない。検討点が不十分だから妥当ではない。になると思います。どちらにしてもYESにするにしろ、NOにするにしろ、何を議論すればその答えを出せますかという点が共有できてないと思っています。その中で、検討を進めても結論にたどり着かないのではないかと考えています。今日はいきなりの話なので、準備ができていないと思いますが、我々が何を議論して、何がそろっていれば結論を出せるのかという点です。

前提は、規模の話で、答申としては数の話は出ていません。規模は、12学級から18学級ということです。規模について答申があつて、教育委員会の方針があり、町としての計画になっています。前回の諮問についてこの審議会で覆すこと

ができるのですか。

大場課長：前回の諮問は完結しています。答申を踏まえて、計画を策定し、実行の段階で、課題というか様々なご意見があり、再検証ということになっています。前回の諮問の問題点を出してほしいとは思っていません。

金子委員：だとすると、前回の諮問は、アグリーするしかないということになります。我々がどうということはない。そうすると前回の答申は確定になります。前回の諮問が間違っているという権限がないことになります。

大場課長：答申の件ですか。

金子委員：そうです。答申です。答申にNOは言えないということですね。

大場課長：前回の答申にNOは言えないです。前回諮問した結論ですから。

金子委員：答申にNOがないということだとすると、論旨に瑕疵があるか、検討点が足りないか。そのあたりでやっていくしかないと思います。議事録を見直ししていたら、その視点がないのではないかという。進め方として何を検討するのか、答えを出すためには何を議論していかなければいけないのかという道筋が見えない。空中戦をやっている感じです。どこに向かっているのか見えてこない。そこをお願いしたいのですが、事務局の案として、どういう工程でやっていきたいのか、という全体像を示していただきたいと思います。この先何回やるかは気にしていません。また今日示してほしいというわけでもないですが、腹案でも構いません。

大場課長：これまでの経緯としては、1回目は過去の経緯の説明と意見交換、次に学校の規模について議論いただきました。その結果、目指すべき学校規模については、12から18学級ということで確認しました。それを実施したときに、子供の減少を考えると、中学校が1校になるというときに、計画において通学の安全面において記載はされていますが、実際にどういう状況になるかわからない中で、もう一度その部分をトレースして、実際に実験した結果から第3回で検証していただきました。その結果、おおむね半径4キロで、安全性を何よりも重視すべきだという方向性をいただいたと思っています。そして今回の検証では、地域の中から学校がなくなっていくということに対して、不安を感じている意見も多くあります。そこで現状として、地域と学校との関わりについて、現行計画でどこを目指しているのかという点を検証すべきと思いました。今回の資料の別添3にあるとおり整理していますが、端的に言うと小学校において地域との関わりを強くし、中学校においては、一定規模を確保したうえで、教職員の確保や部活動の充実を図るという方向性にあるというところを踏まえて、審議会でも地域との関係性について議論、検証していただきということです。

金子委員：個別の話は分かりますが、何を議論していきのかという全体像がないと、そのポイントで足りているのかどうかかわからないということです。役場はこん

な感じということでも、我々としてはそれでいいのかという点もあると思います。この点を議論してと言われても、そもそもそれでいいんだっけということになってしまいます。私は、全体像が見えないので、結論が出せるとは思えないんですが。論旨に瑕疵があるか、データがどうか。ただ、データは我々は持ち合わせていないですから、これは否定できないでしょう。論旨に瑕疵があるか、検討点として十分かどうか。我々としてはこういう点も検討すべきではないか、という点は確認していかないといけないと思います。その点も話をするかどうかもわかりませんので。なので全体像を示していただき、こういうものでいいですか、という点の確認が必要だと思います。

大場課長：審議会の進める計画を示せということですか。

金子委員：そうですね

大場課長：次は何をして、次は何をするかという計画ですね。今日は難しいですが、次回までに検討します。

金子委員：今日は無理なのは、わかっています。あと3回分の議事録を確認したのですが、まさかと思いますが、子供たちのことを度外視して、私の母校が残ればいいのか、母校をなくなるのは困るという思いで参加している方はいないですよ。あくまでも適正配置は子供たちの未来のために、我々ができるモア、ベター。多分ベストといったら、言い過ぎというか、我々ができる最善の道はなんであるかをポイントとしてやっていると思うのですが、うちの地域から中学校はなくさせない、という思いで参加している方はいないですよってことは確認したいです。別に個人個人で答えてくれという話ではないですけど。

菊地委員：答申に賛成するかしないかという話ですか。

金子委員：YESにしるNOにしる、これがないとYESといえない、NOにするにはこれがないとダメだよって話をしないと…。

菊池委員：中学校を1校にするということについて、いろんな面から検討しないということなのでしょ。

この間、八河内の先の方から測ってみたら6.8キロって話は初めてなわけですよ。そういうことについて前回議論があったのかどうか。私としては、雪の日とか雨の日とか季節のいろんな面で自転車で通えるのかということのを調べたほうがいいのではないかということをしたのですが、それはどうなっているのかなと思っています。そういった点については、新しく課題として出ていると思っています。1校でいいかどうかの検討のときは、様々な面から意見を聴取する必要があると思います。

大場課長：今の話ですが、雨でも雪でも実験するというのはやれと言われればやりますが、中学校の場所が決まっているわけではないので、それでも必要なかと思いませんけど。

菊地委員：安全性の検査、ルート、雪のときはどうするのかというルート。危機管理の面とかね。それが一番重要だし、中学生がクラブをやってから家に帰りつく時間も精密に考えないと、それでいいのかわからないでしょ。

大場課長：審議会としては、安全性の確保を第一に優先すべきだという方向性を出していただいているので、それを計画として実行するに当たって、その時点で検討することであって、この審議会の中で、どこまで深めるかということだと思うのですが。

金子委員：例えば、深めないと検討が足りないから、NO という結論になります。という話になるのかということです。

菊地委員：検討しないと我々の役目を果たしていないということになると思いますが。今の話に応じればね。いろんな面から意見を述べさせていただくしかないと思います。

濱本会長：まず、論点は、今後どのような進め方をするのかということもありますが、これまでの答申、計画を実行するうえで、どういう懸念材料があるのか、また考えなくてはならないのか、そういうことで視点を出していただいています。先ほど菊地委員から指摘があった、懸念材料があれば、実施に際しては配慮してほしいという方向性を示すということもあると思います。

菊地委員：いやそれはそもそもどうなのかということです。問題点とそれが大丈夫なのかという点を明らかにしてほしいということです。

濱本会長：そういうことも審議会としては、意見に入れていくと。

菊地委員：それは結論にも影響すると思います。

大場課長：審議会からの答申については、それを尊重して、町として計画を考えていくのですが、答申を出すに当たって、菊地委員がおっしゃったような、雨の日にも検証してほしいというのが審議会の総意なら、事務局としても雨の日なり風の強いに、この間の笠原小学校になりますけど、実験することはできますが。前回の審議会では、確かに菊地委員からそういうお話はいただいておりますが、審議会としてそれを事務局に実施すべきという方向性が出ているとは思ってなくて、それは安全性を確保するために、計画を実行する際には、様々な観点から検討すべきだ、という方向性、趣旨だと思っていたので、本日まで雨の日に実験はしていません。

菊地委員：だから雪の日もあるし、6. 8キロは現実的に無理ではないか。

大場課長：距離については、皆さんからも前回ご指摘いただいています。

小林委員：第1回の諮問内容がありますね。それを確認したほうがいいと思うのですが、適正配置計画等に関する検証と書いてあります。検証というのは、現在の計画のこういうところがどうなのか。こういうところがいいのではないか、などを我々は答申するということだと思います。3校を1校にしろとか、4校を1校にしろとか、そういう議論はしていないと私は思っています。中学校が1校、小学校が3校と

いう計画を見たときにどういう問題点があるか、そういうことを検証してくださいねということで、それ以上でもそれ以下でもないと思います。通学距離が危なければ安全に注意してください。そういうことでしょ。実際にそれは不可能ではないという検証をする場合もあるかもしれません。安全を確保できないという検証結果を出すかもしれません。いや十分だという検証を出すかもしれません。それをこの審議会のやるべきことであって、1校を2校にすべきだという議論ではないと思います。いかがでしょう。

金子委員：そうですね。1校、2校ということではなくて、極端なことを言えば、YESかNOか。

小林委員：YESかNOかという議論まではないと思っています。例えば、通学は無理ですよ。という結論は出るかもしれませんが、その結果、実現不可能と判断するかもしれませんが。

金子委員：検証した結果、瑕疵があり過ぎて無理という結果があるかもしれません。どういう結論になるかわかりませんが、何を議論したら、結論に至るのかという点での認識が皆さんバラバラではないかと思っています。

濱本会長：金子委員のお話は、今、小林委員が的確におっしゃっていただきました。検証してどうなるかを議論するのですが、順序立ててということなので、次、事務局から出していただきますので、それでよろしいですね。

それで安全面については、重要だということで前回の議論にありました。その点については合意形成できています。

菊地委員：安全面について、どういう策があるのか。それは出していただかないと、検証ができないということだよ。

濱本会長：その辺の安全面については、こういう観点で検証していきますというのを事務局で整理できますか。

菊地委員：その時に雨の日はどうなのか、風の日はどうなのか、雪の日はどうなのか、学校教育に支障がないのかどうか、6.8キロとかね。しかも八河内の先は久喜に近いですからね。そういう点で地区の人たちがどう思うかということです。

濱本会長：そういう点も含めて、事務局で整理できますか。

大場課長：答申が出ていない中で、安全面について、町の中でどこまで話ができるかというのは、なかなか難しいところがあると思っています。安全面を配慮とすべきという答申に対して、それを尊重してどういう安全対策ができるかだと思うのですが、場所がまた決まっていないので何とも言えないのですが。場所を決めた際に、例えば、この間の通った道は暗いから街路をつけないといけないとか、距離が遠すぎる。6キロどころか8キロ、9キロになってしまうので、そこについてはスクールバスを走らせないといけない、などいろんな想定はできるのですが、今回整理すると、そういうことを想定して取り組みますということしか出せないこ

とになってしまいます。どこまで整理できるかのかなって疑問に思いました。

小林委員：今言った細かい具体的な、どこに何かをつけろとか、その道を何とかしろとか、そこまでこの審議会でやるのでしょうか。十分注意してください。安全面が一番優先すべきことです。ということは共有できるけど、あそこの街灯を何本にしろとかは、それは違う実務の分野がやるべきことではないでしょうか。違いますか。道幅広くしろとか。

矢戸委員：前回安全面のことで、もし位置が決まって、ちゃんとした検討ができる状態になってから、検討委員会みたいのを立ち上げて、通学路のことでは再度委員会を設置してはどうですかということで、前回お話しています。そういう形でいいんじゃないですか。

小林委員：それでいいと思います。

松本委員：すいません。今日のテーマ進めてください。このままだと先が見えないんですけど。

菊地委員：問題はの間（通学時間が）40分って話だったでしょ。自転車で。

大場課長：（笠原小学校と仮定しても）そんなにかかっていません。

濱本会長：テーマを進めたいのですが。

菊地委員：いや。私がいいたいのは、35分なのか40分なのか50分なのか。雪の時は50分とかかかるときに果たして今までの教育に、教育水準を低下させることにならないのか、ということです。それには答えてもらわないと検討できないですよ。

小澤委員：議論が錯綜している部分というか、金子委員からもあったように、この委員会の立ち位置が今一つ不明確ではないかなと。前回、諮問に基づいての答申をイメージして議論すべきではないかと申し上げました。もう1点この委員会ができたのは、請願があって、その請願が議会で採択されて、それを受けての委員会の設置になっています。その請願内容は「慎重に取り組んでほしい」ということでした。反対という請願ではないです。慎重という意味がよくわかりませんが、どこが慎重でなかったのか、何が足らなかったのか、その部分を立ち位置としない。今まで10年以上もかけて検討してきたことをすべてひっくり返すようなことについてまで、この委員会には権限は与えられていないし、町として一定の方向性を出した計画もできた。それを否定したかといってそれでいいのかなと思います。ですから、諮問を受けたことは検証であり、どう検証するかということ言えば、慎重な取り組みがなされなかったんではないかということの請願がありましたので。自分が思ったのは、中学校がなくなるので反対運動が起きたのかなと。それはありうる話かなと思いました。請願内容が慎重な取り組みということなら、賛成ではあるが、ということでは。反対であるが慎重ってことはないと思います。基本的に賛成ではあるが、慎重に取り組んでほしい。と私は

解釈しています。

菊地委員：深く、慎重に検討しろということだと思います。いろんなことを。誰からも言われても問題ないように、そういうことなんじゃないですか。

金子委員：それも違う気がします。

濱本会長：もう1回諮問事項を確認しましょう。宮代町立小中学校の適正配置に関する基本方針、配置計画に関する検証ですから、みなさんがおっしゃったとおり、こういうところはいい、こういうところは大丈夫か、そういうところを議論するわけです。もう一つは学校教育を取り巻く環境の変化をとらえた検討ということで、今日は、この2番にもかかわるテーマでもあると思います。

先ほどご意見いただいた、前回までの議論については、矢戸委員も発言されたとおり、安全を確保するうえでは、その際はそういう委員会を立ち上げることによってしっかりと検証をいただきたいということで、それは皆さんの意見の一致があったと思います。それを最終的には審議会としてまとめて必要があれば答申としてあげていく。そういう形ではないですか。小澤委員が発言したとおり、それを慎重にやっていただきたいということだと思います。

菊地委員：1点要望です。時間の制約はありますが、意見についてすべて言わせていただき、議事録にも省略しないで、町民にわかるようにしていただきたいです。時間がないから意見はだめだといわれると何のために来ているかわからないから。それは時間の制約があるっていうのはわかりますけど。そういう運営をお願いしたい。

佐藤副会長：私の立場から行けば、先ほどの安全面についても、皆さんが一つの方向を向いた時には、協議会なりを立ち上げて慎重に検討していただく。それはそれでこの審議会として一致した方向だと思います。そういう認識だと思います。そして今回は、地域と学校との関わりについて確認していく。それが慎重だと思っています。いろいろな慎重というのはあると思いますが、具体的なもの。つまり場所がここに決まってどうの、ということ議論しているとは思っていません。その辺については、どっち向きもないです。皆さんの意見交換を聞いていて、自分なりの考えで発言しています。自分の立場としては、副会長なので、皆さんのご意見を聞きながら、一定の方向性は確認していかなければならないと思っています。

菊地委員：意見は言わせていただきたいと思います。

濱本会長：なるべく意見は言っていたいいるのですが。

菊地委員：わかりました。学校と地域との関係について議論していただいているので。ほかにお話があれば別ですけど。

濱本会長：時間がかかり経過しましたが、進めたいと思います。

菊地委員：では地域との関係についていいですか。これ学校に聞いていただいているのですが、学校の誰に聞いたのですか。教務主任なのか、学校として1つ、2つとかに

なっているのですが、論点が少なく、調査としては簡単すぎて問題あると思います。全体的な地域とのつながりというのは、今はあまりなくて、廃止してもいいという立証のための資料に感じもします。地域における学校の機能、働き、前回、防災の面からも地域の中心だということを発言しましたが、町としても学校の機能を総合的にどういうふうに考えているのかということ質問します。

松本委員： すいません。意見を言わせてください。地域との関係性については、小学校が中心に築いていると考えていました。地域に中学校に温存させなきゃいけないところまでいっているのでしょうか。あったほうがいいとは思いますが現状を考えたとき、あれも欲しい、これも欲しいとは言えないと思います。各地域には小学校がありますというところで整理しているわけであって、申し訳ないのですが、委員のご発言は、中学校がなくなるからそれは困るという前提の話のように聞こえてしまいます。感想ですけど、そう思いましたので発言しました。

菊地委員： 地域と学校との関係をどうなるかというのを調査しているのだから。学校が地域の中でどういう機能、働きをしているのかという論点で話しているのだから、町として、機能がどういう面とどういう面とどういう面があるのかということ聞かせていただきたいということです。

濱本会長： 菊地委員から中学校を町としてどう考えているかという話がありますが。

菊地委員： 機能としてです。中学校の機能でいいですよ。

大場課長： 別添3のイメージを今の計画が目指していると思います。小学校を中心に地域との結びつきをより強固にし、そこは多機能化して、どういう施設が入ってくるかわからないですが、地域の拠点施設、福祉施設等、多くの世代が集う場所というのを現行計画では考えているのだと思います。そこに防災面ですとか、そうしたものを強化する必要があると思います。一方で中学校については、規模の問題もあるので、まず中学校では新たな人間関係の構築ですとか、切磋琢磨できる環境の整備だとか、宮代の子供たちが同級生になって一つの学び舎で学んでいく。そういうところを目指しているのだと思います。

小澤委員： 私も地域と学校との関わりあいは、小学校がそれぞれの地域にあるわけなので、施設面とか住民とのかかわりの中で3校あればいいのではないかと思います。また一つには私、須賀島の区長やっていますが、小学生との関りは住民とはうまくいきますが、中学生とは住民との関りはないと思います。難しいと思います。中学生も嫌がると思いますので、それを前提に考えるのがいいと思います。中学生は部活もありますし、受験もありますので。小学生は子ども会とかと何かやるのはあり得ると思います。中学生は無理だと思います。地域との結びつき云々よりも、中学生は、宮代町全体の同級生を作る、高校になれば全県の友人ができる。大学になれば全国レベルの友人ができる。留学すれば全世界の人間関係ができるわけです。教育というのはだんだんと世界が広がるわけですから、むしろその

地域に小さく固まれというのは、子供たちにとってあまりいいことではないと思います。その意味でも宮代町全体としての部分で1校もいいのではないかと思います。

濱本会長：中学校は今の言葉でいえばワンチームとしていうことだと思います。

小澤委員：そうです。以前は、東小と百間小が一緒になって百間中。それでかなり広い友達ができます。ただ残念ながら須賀小、須賀中は1校と1校なので、そのまま上がっていきます。そうすると人のつながりが大きく違ってしまいます。ですから中学生になったらできるだけ、町全体の友達ができただろうがいいと思います。高校、大学と広げていければいいと思います。その方がいろんな刺激も受けやすく、いろんな考え方にも触れることができますので、地域に根差した学校というのは、小学校3校でいいのではないかと思います。

濱本会長：地域に根差した小学校で培ったものを踏まえて、中学校に行って人間関係を大きく広げてほしいということですね。

小澤委員：そうです。そのほうがお子さんの将来性に大きな意味になると思います。地域で固まって小学校から中学校までいつも同じ友達でいるっていうのは、どうかなと思います。

濱本会長：ほかにもご意見をお願いします。

央戸委員：須賀小学校から須賀中学校は、ほとんどメンバーは変わりませんよね。同じく百間小学校から前原中学校もあまり変わらない。東と笠原は、百間中になるのでちょっと世界は広がります。須賀中と前原中から高校に行くと、高校不登校になるというパターンもあるらしいです。高校で人間関係が広がって、2つのパターンがあるようです。楽しいというパターンとびっくりしてしまうタイプ。びっくりしてしまうタイプの方が不登校になるというパターンがあるようです。中学校の段階で、今の東小と笠原小から中学校に上がる子供たちのような環境を、須賀小、百間小の子供たちにも提供してあげられたほうがいいと思います。いきなり、大きな世界に行くというより、自分の地元で世界を広げるという段階を踏ませてあげる環境の方がいいと思います。

小林委員：中学校の現場にの点からの意見なのですが、前原中は、地域の方々を指導者にしていろいろな講座を設けました。浴衣の着つけやお茶など。体験学習で10講座くらいやっていました。今はやっていないと思いますが。従来は、学区の中の方をお願いしてできたんだと思いますが、今はほとんど全町的あるいは他市町村まで講師を探しながら実施するという状況です。地域だけではまかないきれなくなってきました。確かに地域の教育力を生かすことは理想ですが、大きな広い範囲の中から指導者を選ぶということになっていきますので、地域の方々と根強くつながっているという感じは今は薄れていると思います。

もう1点。逆の方向として、地域にとって中学生は有力な人材でもあります。特

に防災などでは、中学生の力というのは大きいんです。ですから中学生が地域で活躍できる場があればいいのですが、むしろそれは学校教育の範疇ではなくて、自治会だとか、地域自治だとか、社会教育といったレベルの問題になっていくのかもしれない。

したがって、現状としては、地域での教育力というのはあまりこだわっていない面もありつつ、地域に中学生が行くことも大切ではあると思います。

濱本会長：人間関係を広げることは大切であり、地域に出ていくということも大切だということですね。

小林委員：そうです。

菊地委員：不登校率の問題ですが、中学校で合わさったから、高校に行ったときに少ないということですか。

穴戸委員：高校進学して不登校になる子が発生するということです。

菊地委員：統計的にそうなっているのですか。

穴戸委員：経験された保護者の方からお聞きしました。まさかという感じで不登校になっていたりするんだと思います。

菊地委員：そこはいろいろなケースがあります。一緒になると不登校になるというケースもあると思います。中学校は、不登校はいるのですか。

大場課長：不登校になっているケースはあります。

杉村委員：私は人口が多いところで育ったので、また子供が小学生なので中学校のことは聞いたりしながらでないイメージがつかないのですが、思うのは、まず生徒がしっかり学べて、様々な経験ができることが重要で、地域の問題とかあると思いますが、地域であれ、会社であれ人口減は大きな問題だと思っています。まず規模を保っていくというのは本当に大事なことだと思います。あれを取ればこれは取れないなど、そういうことはあると思うのですが。一定規模と学級数を保って、部活動が活発化するような状況を大事にして、それが結果として1校にしないと実現が難しいというのであれば、そういう方向で考えながら、その中でもいろいろとあると思いますが、全部が満足ということは難しいだろうなと自分の頭で考えています。地域もあると思いますが、規模をしっかりと保っていくのが、宮代の子供たちには大切だと思っています。

矢戸委員：私の意見ですが、中学校と地域との関係性についての調査結果は、まさにすべて合っていると感じています。学校としては、少ない先生の中、少ない時間の中、たくさん地域に発信していると感じています。それに対して、来る来ないとか、学校に訪問するとか、それはまた別の話ですが、学校だより等を配布していくのはすべての保護者になります。つまり学校から預かりものをして、区長さんに配布するという窓口が保護者になります。今後もっと発信できるような形でやっていって行けたらと思っています。それがこの視点のすべてについての意見と

いうことになります。

松本委員：私は、中学3年生と小学校5年生の子供がいます。中学校の子供が進学する際、閉じられたところに進学させるのはどうかと思ひまして、都内の中学校に進学させました。例えば、宮代町では、笠原小と東小の2校が一緒になり百間中に進学しますが、2校が一緒になったくらいの社会的勉強といのはどうかと思ひ、都内に通わせています。本人も強くなったと思ひています。なので中学校の方向性については、自分の子供を外に出してしまっているの言う資格はないのかもしれないかもしれませんが、学校選択をするうえで、小学校と中学校の機能分担を考えたときに、やはり小学校と地域との考え方、中学校と地域との考え方は異なると思ひ、自分の選択をしました。そしてそれが間違っていたとは思ひてはいません。それがもし宮代町で一つの中学校になっていたら当時私も考えたかもしれないなというのが親としての気持ちです。今は交通機関も発達していますので、1時間で都内まで通えます。選ばれていく学校にするためには、周辺の私立や都内の学校にも負けないような教育環境を作っていく必要があるのではないかとということで、やはり規模は捨てられないなというふうに思ひています。

小澤委員：私も方向性は同じ考え方ですが、地域住民との学校の関りという点で、お子さんのことを最優先に考えれば、地域住民には、多少不安でも不満でも我慢していただく必要があると思ひます。私の親もそうですが、教育というのは、保護者からすれば少しでもいいところ、子供にとって有利なところに行かせたいと思ひていると思ひます。小さな地域にいて優秀になれるのならそれでもいいですが、教育というのは一定の切磋琢磨が必要ですし、刺激が必要ですし、視野を広げていかないと、将来的には視野の広がらない若者になっていってしまいます。いい中学校を作りますから来てくださいというのが基本だと思ひます。そういう青写真を描けるかどうかだと思ひます。

検証として私の視点を申し上げますと、うがった見方かもしれませんが、公共施設のマネジメント計画が最初だったと思ひます。これはどうみても町の財政状況を踏まえてどれだけ予算を削減できるかという視点でまとめたとしたら私は読めません。その流れで最も歳出を削減できるのは規模の大きい学校だという結論になっています。これをまとめたのは専門家ですからいいと思ひますが、若干違うのは、親もそうだと思ひますが、お金がかかるから教育費を削りましょうというのは最後の手だと思ひます。日本人はどんなに苦しくても子供の教育費は出していたと思ひます。地域住民の視点から見ても、宮代町はインフラは非常に遅れています。道路よくするから教育費を削っていいかといってもほとんどの人は賛成しないと思ひます。保護者の視点に立てば、道はデコボコでもいいからいい教育をしてくれということだと思ひます。出発点については、少し違うと思ひています。それが私の検証です。

濱本会長：要するにいい学校を作ってほしいということですね。

小澤委員：そこだと思います。

菊地委員：いい学校というのがよくわかりません。自分の子供が都内に行くとか、別の地域に行くというのは選択をそこでしているわけですが、学校は学校で競争するというのも必要だと思います。学校として。例えば、須賀中と百間中が競争して、成績を上げるとか部活動で競争するとか。それが1校になると、学校間の競争はなくなるということだから。だけど、子供を入れるかどうかというのは、親の考えなんでしょうけど、そこに競争が必要だと思います。

それと先ほどいいましたが、別紙の調査なのですが、学校で一つの意見しかないのですが、学校ごとにまとめているのですか。

大場課長：調査は、校長先生にお願いをしております。

菊地委員：それで意味があるのですか。

金子委員：では何をすればいいのですか。

菊地委員：もっと広く先生方の意見を募ったほうがいいのではないかと考えています。私は学校の機能も考えてもどうなっているのかという疑問だったのですが。

小学校、中学校は、運動会、入学式、卒業式でも多くの地域の人が行っているんですよね。楽しみにしていて、中学校であれば大事な事業だと思います。本当に調査をするのであれば、須賀地区の自治会の人にアンケート調査、もっと広げるとすれば、住民投票まではいかないにしても、多くの人から意見を聴取するのが大事だと思います。それが地方自治の本旨だし、民主主義だと思うので要望します。

それとこの間の議論で6.8キロというのがあったのですが、久喜に近いほうの人が宮代に家を作ろうかと言ったときに、いろんな人から話を聞いたのですが、遠いと例えば、久喜市や杉戸町、春日部市に比べて敬遠されてしまうのではないかと。そうすると、余計過疎を助長してしまうのではないかと。という恐れもあるのではないかと気がしています。

群馬の過疎地域のところを見るのがありますね。

大場課長：過疎地域がどうかはわかりません。

菊地委員：甘楽町でしょ。

大場課長：そうです。

菊地委員：過疎地域のところを見る必要があるかもしれないのですが、だったら菁莪、南桜井の方など東武スカイツリーラインで駅の近い同様のところについてみる必要もあるのではないかと気がしています。それから…

濱本会長：ちょっといいですか。少し論点が違ってきていますが。

菊地委員：はい。わかりました。また後でにします。

佐藤副会長：本日は地域の観点から議論しているので、その観点から自分が気になるなとい

うのは、中学校が1つとか、規模が大きくなったからといって地域がなくなるわけではありません。中学校が1つになったから競争力がほかの町と比べてなくなるというのもおかしな話だなと思います。それぞれの小学校は身近な機能として防災だとか、そういう機能もあるから地域として必要だと考えています。中学校においては、地域について、どういうとらえ方をするかなんだと思います。自分の意志で私立中学に行くという選択はいいと思いますが、宮代町くらいの33000人のところで、消極的なことで他の自治体の中学に行ったりということが現実的に起こっているわけです。一つの地域って考えたときに、私の活動している子ども会では、中学生は、部活動で忙しい中でジュニアリーダーとして関わってくれています。しかもジュニアリーダーの人たちは、一部地域だけでなく、町全体として活躍しています。それくらいの規模で中学生になると活動しているわけです。その子たちが次の時代の宮代町を担っていく、活躍する人材になってきています。これまでの議論にあったようにある程度のスケールメリットというのがあることは十分わかりました。一方で1校にすると防犯面での課題もあるのは承知していますが、中学校を考えたときに、消極的な理由で町の中学に通わないという、やりたいことができない、とかそういうことがないようにしたい。宮代の中学校はさえないので他にいきたいとか、部活動のあるほうに行きたいな、ということが起きている現実が問題なのかなと思います。

菊地委員：クラブ活動で学校を選ぶことがありますか。

濱本会長：それは現実にあります。自由学区の地域は意外とあります。

小澤委員：自治会でお付き合いしている方は、元校長先生などもいます。お話を聞くことがあります。現実はそのだと聞いています。もっと極端な話、部活の顧問やっていた先生が動くとそこに行っちゃうんだそうです。驚きましたけど。それは普通だと言われました。つなぎとめるには、部活も含めて教育水準を向上させるという考え方をしっかりと作るべきだと思います。そういう考えで物事を考えていけないといけないと思います。私の個人的な考えかもしれませんが、歳出を削減するために学校を統合するなんて思われたら、それは大きな間違いであって、あくまで子供のためにいい学校を作るんだという出発点がなければ意味がないですし、住民も我々も受け入れられないと思います。

濱本会長：みんなが行きたい学校にならないといけないということですね。

小澤委員：その辺があまり理解されていないんじゃないですか。生徒数が減ってて、いろんな意味で教育の環境が低下しているということを知らなかったですから。私は須賀島ですから1校の計画は無茶だなんて思ったけど、いろいろと議論してみると、こういっては何ですが、教育力の低い学校が複数あっても仕方ないと思います。

宍戸委員：先ほど菊地委員がおっしゃった学校同士の競争も現実には成立していないです。

部活動もこの競技は一つの中学校にしかないという状況もあります。町内の中学校同士が競技で切磋琢磨するというのが成立していないです。野球部とかでは連合チームというのでしょうか。そういう状況です。

大和田委員：サッカーも同様です。

宍戸委員：そうですね。そういうことをしないと人数的には試合にも出場できない状況です。子供たちを集めなければ、大人数で実施する競技が成立しないくらいのところに来てしまっていて。それはクラブチームにいく子もして、部活動にみんなが入るわけじゃなく、選択肢が増えている面もあると思うのですが。昔のイメージで考える学校同士の競争とかは今は成立していないです。

菊地委員：学校同士の競争は、私が言いたいのは、勉強です。

大和田委員：須賀中を卒業した子供がいますが、サッカー部でした。そのときも人数が集まらないので合併になってしまいました。百間中と白岡の菁莪中です。合併をしたときに、コミュニケーションが取れていないので、練習と実際に試合に出たときも、名前を知らないで、同じチームなのに番号で呼んでいるんです。うちの子はキーパーだったんですけど、とっさのときに番号で呼ぶので、親として「えっ！」って思いました。でもそれしか方法なかったんですよね。子供たちはコミュニケーション取る暇ないので。これで何が得られるものがあるのかなって、そのとき考えてしまいました。これが現状なんだって。その辺はやはり考えていただきたいなって思います。

濱本会長：一つの学校の中ならコミュニケーションも取れますよね。切磋琢磨もできますね。

大和田委員：そうです。それができないというのが現状なのです。

菊地委員：今の意見に対してなのですが、リトルリーグとかサッカー少年団が相当発達してきているのではないですか。

宍戸委員：それと部活動の現状は関係ないと思います。

菊地委員：そっちのウェイトが結構多くなってきているのではないですか。

小林委員：サッカー少年団とかリトルリーグとかありますね。ただ、それと部活は別の話になっていくと思います。

それで、地域性の話として、先ほど何人から出ていますが、高齢化の中で地域の力を取り入れていくというのは学校教育の中で必要なんだけど、現状として限られた地域の中で人材を探すというのはもうなかなか厳しくなっている。であるならば先ほどどなたかおっしゃいましたけど、全町的な地域の中から、学校教育への関わりを考えていくというような視点を持たないと。狭い中での結びつきを考える時代ではないと思います。早く大きな世界との関わりを持たせるようにすべきでそういう方向に変更していくべきではないか。例えば、日本工業大学がありますから、前原中の生徒が日本工業大学の学生に何か教えてもらうとか、学区の地域とは関係なく、広い視点からの教育力を導入していくとい

う、そういうふうにもっと広く考えたほうがいいのではないかと思います。そういうことですからもし1校となっても十分に地域性というものは保てると思います。

金子委員：今日は地域と学校ですよね。ずっと計画との関係で確認したのですが、基本方針の中の多機能化と地域連携のところに焦点を置いているのかなと思いますがいかがですか。

大場課長：基本方針もあるのですが、今回再検証を行うに当たって先ほど、請願の話もありました。その中では地域との関係での様々なご意見もありました。現行の計画等の中で、今委員さんがおっしゃった部分しか地域との関係が触れられていない状況です。学校と地域との関係をもう少し議論したうえで再検証する必要があるとのことでした。

金子委員：ということはこの基本方針に縛られず、もう少し広い視点で考えてもよいということですね。

これまでの議論の中で、小学校と中学校を考えて、小学校はより地域に近いよねという点については、そこは皆さん、そういう体験をしてこられたと思います。そこを否定する人はいないと思いますし、私もそう思っています。では中学校における地域を考えたとき、中学生は、受験もあり多感な時期に、中学校で考えるべきか、中学生で考えるべきなのか悩ましいところです。つまり中学校と地域なのか、中学生と地域なのかということです。中学校と地域の関りを考えたとき、中学校って地域の中で考えたとき、この場合、地域って宮代町にしましょう。どういう存在なのか、どうあるべきなのか。例えば、防災の拠点なのか、教育の中心なんですか、などいろいろあると思いますけど、どう考えましょうかというのが一つのポイントだと思っています。

自分はどうですか、ってことなんですけど、多様性というのが叫ばれています。人が少なければ多様性もありません。先ほど人が少ないから都内の中学校に通わせているという話がありました、とてもよくわかる話です。多様性のない中で多様性を確保しろってのは無理な話です。ダイバーシティという言葉が最近使われていますが、要は多様な考えを持つ人と触れ合うということ。それを少しずつ成長の段階を通して広げていく。いきなり広げるとハレーションを起こして不登校の話になるというのは、理屈としては非常に理解しやすい話です。中学校ってそういう場です。まず人間と人間がより多様に交流していくところに教育の場だと思っています。当然基礎学力を身に着けるのは大前提にあります。そしてその質を確保しないといけないよねっていうのが今回の規模の話であり、結果として統合になるのではないのって話だと思っています。計画上の話ですけど。それで多様性の話との関連で、中学校が分かれて交流がないという話なのですが、私はダブル成人式の不惑の関係で活動しています。そこではある中学校の出

身者は一人も来ないという状況になっています。不惑になっても多様性とか交流がないという状況です。私はよそ者なのですが、よそ者ですら実行委員になっているのと思います。統合するとより交流の場が広がるという側面があります。1校にする意味というのは、本当は別のところにもあると思いますが、距離が遠くなるとかいろいろデメリットを言い出すときりがないかなと思います。何がベースかはありますが、これが我々ができる最大限のことですということでは考えるしかないと思います。

加えて多機能化という観点から、中学校における多機能化をどう考えていくのか、という点です。私もアイデアはないのですが、小学校はわかりやすいです。防災や福祉的な拠点として地域に根差しています。と考えやすい。中学校を考えたとき、どういう多機能化を考えているのか、地域に根差した中で。そのアイデアは実はあまりなくて、公共施設マネジメント計画をみても小学校の話は理解できるのですが、中学校における多機能化というのはやはりよくわからないという面があると思います。必要なかどうかというのもありますし、やるとなったらどうやるのかというのもあると思います。ここは検討足りてないと思います。

中学生と地域をどう考えるか、受験だとか、ジュニアリーダーとして地域に根差していくと考えたときに、自分の中学時代を考えると部活に行き塾に行きのみで地域との関わりがなかったと思います。中学生と地域。それを実際にどう考えればいいのかという、アイデアないですが、その視点も必要なんだろうなと思います。その点は中学校のPTAの皆さんに聞いてみたいところです。

矢戸委員：調査のとおり先生がそう感じているということは現状がそうなっているのだと思います。学校内のことに関しては、評議委員会なりで地域の方たちと話し合ったりして学校づくりを進めていっているんだと思います。1校になったときに遠いところから評価委員の方が学校に足を運んでくれるのかなというところもありますが、実際、規模が大きくなったらそういう委員会の時間を増やしていくのが理想だと思います。

金子委員：中学生と地域をどう考えていけばいいかなと。そこがいまいち見えません。

小林委員：中学生と地域という議論になると私も考えたんですけど、ないですね。

金子委員：浮かばないということですか。

小林委員：それでいいかというと別の問題なのですが。つまりその部分は地域にゆだねられているんじゃないかな。地域のお祭りだとか地域の運動会だとか文化祭だとかよくわかりませんが、そこに学校が関与することはほとんどないです。中学生と地域ということについては、その点では薄いかもしれないですね。そこはそれぞれの地域のことなのかなという気がします。

矢戸委員：その辺をケアするためにオープンデーとかで、回覧板で回して一生懸命呼ぼうと

はしているのだと思います。ただ、中学生となると難しい。おじいさん、おばあさんが学校に来ました。一緒にわーっと駆け寄って遊ぶというのは小学生で、中学生と地域の方との交流は難しいですね。

金子委員：中学生と小学生で訪問で交流だとか、中学生が幼稚園にいったり体験するとか、そういうのは聞いたりするのでないわけでもないだろうと思います。学校という枠の中の中学生になっていて、中学生と地域というのは、もしかしたら答申に求められていない、「ただし」みたいな付随する事項なのかもしれません。その点も踏み込んで考えるのかどうか。考えるとしたらどうするのか…。中学生と地域って私も先ほどあったように地域の話なのかなと思います。そうすると自治会とかそういうことになり、話が広がってしまうので、そこは地域で考えましょう。ということになるのかなとも思います。

宍戸委員：子ども会は、小学生を卒業したらもう会員ではなく、中学生は子ども会に入っていないというのがほとんど自治会だと思います。

金子委員：子ども会は、小学生までです。

宍戸委員：そうですね。6年生までですね。ありがとうございます。中学生は、地域に所属する自治会がないというケースが多いと思います。地域のお祭りはみんな楽しみにしていると思います。身近な安全なところでおしゃれをして、好きなものを食べたり、友達とあったり。それをみんな楽しみにしています。町民体育祭については、どうですか。

金子委員：地域にもよりますが、小学生かその上だと思います。綱引き大会も同じです。

宍戸委員：この子は絶対足が速いとか、エースを投入してくると。そういうのが中学生の地域との関りではないでしょうか。そういう中でも自分が表彰されたりすれば、それは思い出になると思います。参加するきっかけというのは保護者の熱心なのかなと思います。

松本委員：私も教育に関わっています。中学生と高校生は地域との関係性はないと思います。私の個人的な印象ですが、大学生になって成人式に地域が働きかけると戻ってきます。それからまた関係性ができてくるというのが、あるのかなと思っています。中高の6年間は、一番人間の成長期で反抗の強いところで、青年心理学をやってきた人間としては、扱いが難しいというか、やはり熱病にかかったライオンと言われているくらいですから。今唯一地域に戻ってきているのは、ボランティアをやりたいという1個人の福祉系を目指している中高生です。ですから、地域との関係を持ったときには、中学校というハード面の関係しか考えられなくて、それ以上のことはこころ論じるのは難しいと。中高生というのは、地域との関係性は持っていないよね、希薄だよよねということを経験できれば問題ないんじゃないかと思います。

金子委員：と私も発言しようと思っていました。マッチポンプですいませんが。

菊地委員：別紙の調査については、おそらく校長先生が整理していると思うのですが、もう少し対象を広げて、先生とか学校の人に意見を書いてもらったほうがいい。これは調査としては、ちょっと問題だなと。という気がしています。学校間の競争とがなくなってしまうことがあります。今中学校間の陸上競技の対抗戦はやっていないのでしょうか。昔小学生はやりましたが、今はないですか。小学生はやっていますよね。将来どうしたらいいかという意見なんかも多少7に書いてありますが、もう少し精密な調査があったほうがいいんじゃないかという気がしています。

大場課長：ちょっと確認したいのですが、どういう項目を調査するのですか。

菊地委員：先生方がどういうふうにやっているかです。そういうのです。

他の委員：（複数人の声で）ただでさえ先生方は忙しいのに。過労になりますよ。

池田委員：町内の中学校の学校間の競争よりも、宮代町としていい学校を作って、対「外」との競争という視点にはならないのでしょうか。

菊地委員：気を付けないといけないのは、今がよくないのか、次の学校をどうすればいいのか、そんなにはっきりわからないでしょ。悪くなるかもしれないし。合わさるとですよ。クラブ活動はいろんな選択肢が増えるかもしれないけど、それでほかの学校に行く人が増えるかもしれないし、そんなシンプルなものではないと思うんだけど。

金子委員：今に問題があるのでは。

菊地委員：今、実際にわからないけど。

金子委員：教育の水準というよりは、教師の数が確保できないですよ。法律の縛りで、規模が確保できないと教職員の数も確保できない状況です。結局今に問題があるだと思います。前提として。規模が確保できないと教育する人材が確保できないわけで、現状も問題なのです。

菊地委員：どういう根拠ですか。

金子委員：法律です。

菊地委員：いやそうではなく、教育の面で共有テストありますよね。それで宮代町はどういう水準なのかという点は、わかっているのですか。

金子委員：今の問題は、教育の点数ではなく、教育する環境が問題だということです。このまま進むと環境がさらに悪化していく可能性があります。悪化の一途になってしまいます。数が減るわけですから。教育の環境が悪化するということは、当然、教員の数が配備できないわけで。

菊地委員：客観的な話で学業なのですが、それはどうなのですか。それが大事です。

金子委員：環境も問題がある中で、より点数がよくなると思いますか。

菊地委員：そんなシンプルなもんじゃないでしょう。

金子委員：シンプルなもんじゃないですよ。シンプルなもんじゃないけど、環境が悪化して

いって大丈夫なのですか。

菊地委員：いや。現状がどうなっているのかということです。隣接市町村と比べて。

濱本会長：いろいろとあるのでしょうか。

菊地委員：そのことについてのコメントはあるのでしょうか。そこが一番大事だと思いますよ。

小澤委員：教育の問題って、これが原因でいい悪いとか、これが原因でそうなったとか、そう簡単には言えないと思います。結果が出るのは20年、30年後。極端なことを言えば。現時点で成績が埼玉県で最下位だったら、どういう原因が探るでしょうけど、今後どうしたらいいのかというのは、こうしたらこうなるという解決策がすぐ出るなら誰も苦労しないでしょ。

ただ、それは経験則上、現場の先生なり、教育に携わっている方がこうすればいいのではないか、そうすればいい学校、いい教育ができるのではないかという経験則だと思います。1+1=2という簡単な問題では教育というのではないと思います。我々も真剣に考えますが、20年後、30年後に結果がでるわけです。こうすればいい学校になるなんて簡単にいえないわけで、いい学校にして生徒を集めるということだと思います。

これは私が誤解しているだけかもしれませんが、財政負担を減らすために、学校の再編がスタートしたのかなってという気がするわけです。それではダメだと思います。そういうにおいがすれば保護者は反対すべきだし、しなくちゃおかしいと思います。自分の子供や孫がお金がないので、1校にしてお金を節約するという感じがしました。そういうことなら反対すべきだと思います。うがった見方なんですけど。

濱本会長：今、視点1及び2で検討しましたが、議論してみると視点3も含まれていますね。皆さんのご意見をお聞きしますと、1校にするとかは置いておいて、とにかくスケールメリットをしっかりと生かして、子供たちにとっていい人間関係づくりができて、宮代にこんな特色がある学校があるぞという学校を作ってほしい、という意見が多いのですが、そういう方向でよろしいですか。

小澤委員：住民の方に一番理解しやすいのは、その点だと思います。

松本委員：いいと思います。

濱本会長：はい。ではまだご意見をいただいていない委員にもお聞きしたいと思います。

戸田委員：皆さんと同じで、宮代町に特色のある学校ができるというのが、子供たちを思って考えた皆さんの話だと思いますので、その方向でいいと思います。

鶴見委員：私もスキルの高い先生がたくさん来てくれて、子供たちのレベルも上がってくれば、それが一番いいことだと思います。それをするために学校を統合するというのがあれば賛成です。そのために通学時間の危険性ですとか、そのほかのデメリットみたいなものを解消していくという進め方ならばいいと。私も皆さんの

意見を聞いていて、そうしていただければいいのかなって。いい学校ができていくのではないのかなっていうふうに感じます。

濱本会長：安全配慮については、実際の実行の段階では、委員会を立ち上げるなどして、それを配慮してしっかりとやってほしい。ということだと思います。

小林委員：会長のまとめで概ねいいと思いますが、本日は地域との関係なので、生徒同士の人間関係が、段階を追って広く大きくなるのと同じように、地域との関係からいけば人材の交流だとか、教育力を広範囲に取り入れていくというメリットがなければ、全町的にする必要はないわけなので、学区一つということであれば学区にある教育力の図っていただきたい、ということをつけ加えてほしいと思います。

濱本会長：的確な意見がありありがとうございます。まさにそういうことですよね。

菊地委員：私は、調査について、そういう点では、1校1つの意見しか出ていないということで疑問だと思います。それから前提で人口が減っていくという話なのですが、宮代町の場合、和戸須賀地区でも衛生組合が廃止になって、跡地をどうするのかとか、横町開発の状況どうなっているのか、圏央道のスマートインターとか、和戸駅西口の開発状況。こういうふうな状況を入れて将来を考えなければ、将来の人口がどうなるかというのはわからないと思います。これは都市計画審議会とか、総合計画の関係があるのですが、町としてはこの辺についてどういうふうに算定しているのか、この辺の状況を踏まえて本当に人口が減っていくのかということなんです。今須賀中については200人以上いるわけですが、前提自体が疑問だということなんです。それからこの間報道でも、中高一貫校が全国的に増えてきているというのもありまして、こういう点では宮代町の高校が中高一貫になる可能性は全くないのでしょうか。県の教育委員会に問い合わせさせていただきたいというのがあります。そういうことを言いたいということです。それから議事要旨も発言のところをできるだけ記載してほしいと思います。

濱本会長：中高一貫については、この会での議論とは違うと思いますので、そういうときに改めてということではないでしょうか。

金子委員：中高一貫はややこしい話ではないでしょうか。

大場課長：今、ご意見でいただいた、教育委員会でも承知していませんが、人口の関係で和戸地区や衛生組合の跡地がどうなるのかというのがこの審議会の中で必要な情報なんでしょうか。確認したいのですが。

菊地委員：見通しとしてどう考えているのかというのを入れないと。

松本委員：この審議会では必要ないのではないのでしょうか。

菊地委員：いや。人口が減っていくんだという前提で話をされているし、宮代町の教育がどの辺なのかというのが分からないと。

濱本会長：それは別途確認してはどうですか。審議会の審議の内容とは違うと思います。

菊地委員：いや考える前提としてということです。実際はわかっているんでしょ。

大場課長：審議会の議論として必要というならそれは調べますし、調査も足りないというのであればやらないといけないと思いますけど。

菊地委員：必要だと思いますけど。

大場課長：審議会としての総意ではなく、一人の委員さんのご意見にすべて対応していたら、申し訳ないですが我々も残業ばかりになってしまいます。

濱本会長：本日の審議会において、地域との関係性について概ね整理できましたので、とにかく宮代で教育を受けてよかったという子供たちの人間関係をつくってあげるため、特色ある学校を作っていく必要があるということ、そして安全配慮については十分に対応してほしいということが今回の審議会での意見交換でした。

松本委員：冒頭ありました審議会の全体の流れ、全体像を見せていただくとありがたいと思います。それ以外は私は必要だと思いません。

菊地委員：私は前提として宮代町の水準などは必要だと思います。

金子委員：では知っている情報で言いましょうか。まず人口に関する情報について、必要か、不要かと言われると、不確定要素が強すぎて、そういうものを数字に盛り込むんですかということで、ほとんどの人はいらないということだと思います。和戸横町地区については、私が聞いた話ですが、横町地区は物流センター的な要素にするという話です。ここでもっと話しますか。

濱本会長：それはやめましょう。

菊地委員：いいです。

濱本会長：さきほどいくつか言われたことは関係ないということでみなさんよろしいですか。

菊地委員：人口が減るってことと、さきほど金子委員さんの中で宮代の教育水準が低いんだと言ったから。本当なのかということです。それは資料として事務局がどういうふうに考えているのかということが必要でしょ。必要な情報として教えてほしいということです。

穴戸委員：出ているのではないですか。

菊地委員：いや。宮代の教育水準がどうか。高いんじゃないという気がしています。共通テストなんてどうなっているのかということです。

金子委員：それは点数の切り口ですよね。私は教育環境の切り口で申し上げましたが。

濱本会長：様々な切り口があります。考え方としてどうやってよりよくしていくかということではないでしょうか。

菊地委員：学業の成績というのは一つは最終結果ですよね。

濱本会長：それは一つの切り口ではあると思います。ただ、今はこの審議会の意見の中では、それよりも子供たちがしっかりと成長できる環境づくりを目指そうということを中心に意見交換しているわけです。それで今日の方向性は出ているわけです。

菊地委員：現状の判断が一番大切ですよ。

濱本会長：それは大切です。それを踏まえてみなさんと意見交換しているわけです。

菊地委員：隣接の市町村と比べて実際どうなのか。教育水準が低いんだという意見がありましたので。

佐藤副会長：学力のことを言ったわけではないですよ。

金子委員：環境としての話ですけど、時間が押しているのでそれを話しますか。

濱本会長：やめましょう。

菊地委員：わからないかな。

濱本会長：皆さんよろしいですか。それでは事務局のほうから事務連絡をお願いします。

大場課長：本日も9時まで活発な意見交換ありがとうございました。次回の審議会については、いくつか日程をご提示させていただきたいと思います。今後のスケジュールについても改めてご提示させていただきます。

それと視察については、2月14日に群馬県の甘楽中学校の視察を行いますので、よろしくをお願いします。

平成28年4月に新しい中学校ができておりますので、最新の状況を確認していきたいと思います。ご参加できない方もいますので、内容については機会をみて報告させていただきます。

以上です。

濱本会長：では本日はありがとうございました。次回もよろしくをお願いします。

一同：お疲れさまでした。